2LJS

春期講習

解答

Ｚ会東大進学教室

中２国語

1章

【問題】（演習）

出典…齋藤孝『読書力』

解答

問1　A＝接続詞　B＝代名詞（名詞）　C＝形容動詞　D＝連体詞　E＝動詞
F＝形容詞　G＝名詞　H＝感動詞　I＝副詞　J＝助詞

問2　何となく（12行目）

問3　言語化（意識化）

問4　Ⅰ＝体験　Ⅱ＝経験

問5　自分の生き方を肯定してくれるような著者〔19字〕（37行目）

問6　アイデンティティの形成には、自分と他者との間に本質的な事柄を共有することが非常に重要なポイントとなるが、自分の経験を読書により確認する行為は実際に経験する以上に有効な手段である、ということ。〔95字〕

●メモ●

2章

【添削課題】

出典…加藤周一『読書術』

解答

問1　碁、野球

問2　(ア)　　問3　(ウ)

問4　「ヴィジュアル」は、その人物の現在についての情報だけをあるがまま伝えることができる。一方「言葉」は、情報を増やすことでその人物の過去や未来まで表現することができる。〔82字〕

問5　読書は安く手軽に楽しむことができ、どの人の知的好奇心をもほとんど無制限に満足させることができる。〔48字〕

《補充問題》

問1　①＝a　②＝b　③＝b　④＝b　⑤＝b

問2　①　さる→作家　②　いわゆる→花曇り　③　小さな→川　④　その→間　⑤　わが→国

●メモ●

3章

【問題】（演習）

出典…『徒然草』

現代語訳

藤原公世の兄弟であり、良覚僧正と申し上げた（方）は非常に腹を立てやすい人であった。僧の住居のそばに、大きな榎の木があったので、人々が（良覚僧正のことを）「榎の木の僧正」と言った。（良覚僧正は）この名称を、それではよろしくないとお思いになられて、その木をお切りになった。その根があったので、（人々は）「きりくいの僧正」と言った。（良覚僧正は）いよいよ腹を立てて、切りくいを掘り捨てたところ、その跡が、大きな堀になっていたので、（人々は）「堀池の僧正」と言った。

解答

問1　せうと→しょうと　／　きはめて→きわめて　／　かたはら→かたわら　／　言ひ→言い　／きりくひ→きりくい

問2　(ウ)　　**問3**　A＝(ア)　B＝(イ)

問4　(3)＝良覚僧正　(4)＝人　　**問5**　(ア)

問6　人々の言うことをいちいち気に病む〔16字〕

別解：僧侶なのに俗世のことを気にする〔15字〕

《補充問題》

出典…「更級日記」

現代語訳

毎年、桜の咲き散る折ごとに、乳母の亡くなった季節だなあと、そればかりが思い出されて心が傷むのだが、（そうした折柄、）同じころ亡くなられた侍従の大納言の姫君のお手跡を取り出して眺めながら、何とはなしに物悲しくなっていた（。そんなとき）、それは五月ごろのことだったが、夜の更けるまで物語を読んで起きていると、どこからやって来たのか見当もつかないが、猫がまことにのどやかに鳴いているので、はっとして見ると、いかにもかわいげな猫がそこにいる。どこから来た猫だろうと見ていると、姉が「しっ、静かに、人に聞かせてはなりません。たいそうかわいい猫だこと。（私たちで）飼いましょう」と言うので、（飼ってみると、）非常に人馴れて、私のそばにやって来て、寄り添って寝るのだった。

解答

問1 (ア)

問2 (ウ)

問3 (エ)

問4 かたわらに

問5 (ウ)

4章

【問題】（演習）

出典…柳田邦男『言葉の力、生きる力』

解答

問1　Ⅰ＝散策　Ⅱ＝吸（って）　Ⅲ＝負（った）　Ⅳ＝混乱

問2　幼い頃に心に刻まれた事象に潜む意味を、人生経験を経てから、咀しゃくしなおすことができるようになったから。〔52字〕

問3　(エ)　問4　ある感情や感覚を最初に体験した時の記憶。〔20字〕

理解を深める

幼い者はその時言語化できなくても鋭い感受性で物事の本質的な部分を感じ取っている。感受性豊かな作家や画家はその幼児期の体験を絵本に表現する。絵本は、大人たちの忘れてしまった幼児期の大事な感覚を呼び起こすものである。〔106字〕

《補充問題》

問1　①　刻々と→流れ　②　さっさと→決め　③　より→強く　④　きっと→感じ　⑤　もう→ない

問2　④

●メモ●

5章

【問題】（演習）

出典…村上陽一郎『困った注文』

解答

問1　A＝(エ)　B＝(オ)

問2　仲立ち（32行目）

問3　仲間との交流を深めるために読書をすることがあるのに加えて、筆者自身が仲間の目を意識して読書をしたことがあったから。〔57字〕

問4　(エ)

問5　文字は人間の想像力を豊かによび起こし、人々に多様なイメージを抱かせるから。〔37字〕

問6　人によって経験や知識や感受性がそれぞれ異なるため、書物から読み取ることも別々である。したがって、読書とは、本来孤独の中で行われる、極めて個人的なものなのである。〔80字〕

理解を深める

読書は娯楽である。活字の文章を読むことで、私たちは現実に体験できないことを頭の中で自由に空想し、別世界へと羽ばたく。それは文字を仲立ちとした豊かな仮想世界である。書物から読み取り、空想する世界は私だけの主観的なものであり、誰かに強制されたり評価されたりするものではない。読書は孤独の中で行われる個人的な営みであり、手軽で便利な主観的娯楽なのであるから、好きな時に好きな本を読んで楽しめばよいのだ。〔198字〕

2LJS
中２国語

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製